

# 新幹線プレス

2015年7月16日 No.235

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

## 225A 列車火災に関して申し入れる!

6月30日、新横浜～小田原間を走行していたのぞみ225号で列車火災が発生し、乗客2人が死亡し他の乗客・乗務員も負傷したとされています。この火災の原因は乗客が故意に油をまいて着火した焼身自殺によるものとされていますが、今後の対策として、何よりも乗客と乗務員の安全確保が重要であると考えます。しかしながら、現状で打ち出されている対策としては防犯カメラの増設と車内巡回の強化が呼びかけられていますが、はたして効果的な対策といえるのでしょうか。より現実的な対策を求めて地本は7月14日に幹鉄事へ以下の緊急申し入れを行いました。

1. 列車火災の詳細について時系列をもって明らかにすること。
2. 今回の列車火災における、列車運行および乗客・乗務員の被害状況等を明らかにすること。
3. 今回の列車火災における対応について、乗務員（パーサーを含む）は考えられるべき最善の策を講じている。そこには、今後の多くの教訓がある。全社員が共有する意味でも以下の社員が行なった行動を明らかにすること。
  - ① 運転士が行なった列車火災に対する詳細な取り扱い。
  - ② 車掌が行なった列車火災に対する詳細な取り扱い。
  - ③ 指令員が行なった列車火災に対する詳細な取り扱い。
  - ④ 乗り合わせたJR社員と関連会社社員が行なった列車火災に対する詳細な取り扱い。
4. 今回の列車火災を受けて、車内あるいは駅構内における不審な行為に対する放送・テロップの追加や車内巡回の強化を掲示等で明らかにしている。しかし、現行のまま車内改札をやり車内巡回を強化するといっても限界があり、会社のいうお客様の安心と防犯・セキュリティーの観点からも警戒を主な業務とする車掌の乗務と一部改札の省略などをして巡回を強化すべきと考えるが明らかにすること。

5. さらに、駅構内及び車内における警察や警備員の添乗巡回の強化が必要と考えるが明らかにすること。
6. 今回の列車火災で乗務員の対応は、人命第一を優先して自らの犠牲を顧みず賞賛に値すると考えるが運転士及び車掌が救急搬送される事態をも生み出している。車内に防煙マスク・耐火手袋・防煙フードなど早急に装備すべきと考えるが明らかにすること。
7. 7月6日柘植社長が客室と車両間に防犯カメラを設置することを記者会見で明らかにした。その中で「手荷物検査は非現実的だ。カメラ映像とともに車内巡回を強化し、カメラの目、乗務員の目、お客様の目で抑止、けん制効果を高めたい」と述べている。しかし、今回の火災で防犯カメラをつけたからといって乗務員が早期発見できるわけではなく、現に側引き戸上部設置のカメラでも事後対処で確認する状況である。

さらに客室内の設置は、お客様のプライバシーの観点からも問題である。乗務員からすれば現在もそうであるホーム上の安全を確認する防犯カメラでも列車看視など問題ある社員の映像を訓練など流すなど防犯ではなく社員管理に利用されている。今回客室内に設置することになれば、改札や車内巡回など業務監視による一層の社員管理の強化に利用されることになり明確に反対である。

むしろ今回の火災では、防犯カメラではなく初期の段階でどうするのかであり現実として天井取り付け型粉末消火器など検討すべきであると考えが明らかにすること。
8. 今回の列車火災における教訓から今後の乗客の安全及び乗務員の安全を含めた再発防止対策で検討していることがあれば明らかにすること。

**乗客と乗務員の安全を守るために、  
現実的に対応可能な対策を求めます！**